

自分らしく生きられる学校づくり ~ 一人一人の多様性を認め合う~

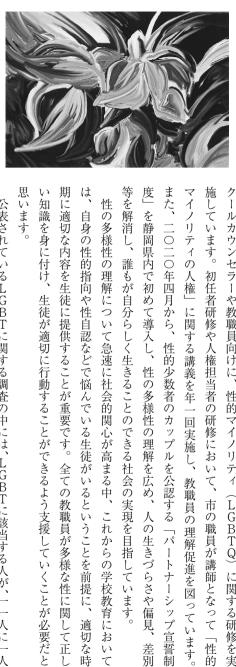
宮 崹

正

本市の取組も交えた内容を書かせていただきます。 です。冒頭、 人の政令指定都市で、「やらまいか精神」という進取の気性で取り組むことが根付く地域 は多種多様な魚介類が届けられる。」浜松は、よく、このように言われます。人口八○万 端技術の息吹が聞こえる。肥沃な土地ではあまたの花卉や野菜が栽培され、豊饒の海から る急峻な山々の厳しい表情を併せもっている。街のそこここで音楽が響き、 さて、日本は、同性婚が認められていないことや、性的マイノリティ(LGBTQ)に 海がある。 浜松市の紹介をしましたが、現在、浜松市教育委員会に所属していますので、 山がある。川も湖もある。活気ある都市の顔と、 標高一、〇〇〇mを超え 至る所で最先

多いのが現状ではないでしょうか。具体的には、制服・水着や髪型の自由化、多目的トイ で、生徒はもとより教職員への理解も図られつつありますが、まだまだ、不十分な学校が 学校教育においては、授業の中で学習する機会を設けたり、 講演会を行ったりすること

レの設置、宿泊学習における入浴等、様々な場面で配慮が求められています。例えば、本



主流となりつつあります。このように各学校での取組も改善されてきています。 画的に変更を進めています。また、校則についても、生徒が参画して見直しを行う学校が 市のいくつかの学校では、制服について、生徒や保護者からの意見を参考にしながら、計

マイノリティの人権」に関する講義を年一回実施し、教職員の理解促進を図っています。 施しています。初任者研修や人権担当者の研修において、市の職員が講師となって「性的 クールカウンセラーや教職員向けに、性的マイノリティ(LGBTQ)に関する研修を実 市としても、「多様な性への理解を深め行動するための職員ハンドブック」を作成し、ス

期に適切な内容を生徒に提供することが重要です。全ての教職員が多様な性に関して正し は、 等を解消し、誰もが自分らしく生きることのできる社会の実現を目指しています。 い知識を身に付け、 性の多様性の理解について急速に社会的関心が高まる中、これからの学校教育におい ,自身の性的指向や性自認などで悩んでいる生徒がいるということを前提に、適切な時 生徒が適切に行動することができるよう支援していくことが必要だと

く生きることを認め合うことについて生徒自らが考えられるようにしていきたいものです。 らず、自分も含めた誰もがもつ多様な性の在り方、人それぞれの生き方を尊重し、自分らし の割合でいるということを示しているものもあります。施設の改修や校則の見直しに留ま 公表されているLGBTに関する調査の中には、LGBTに該当する人が、一一人に一人

(元全日中副会長・元浜松市立曳馬中学校長)